

3 国 評 委 第 9 号  
令和3年 12月1日

各 国 立 大 学 法 人 学 長  
各 大 学 共 同 利 用 機 関 法 人 機 構 長 殿

国立大学法人評価委員会委員長  
車 谷 暢 昭

令和2年度に係る業務の実績に関する評価の結果について（通知）

国立大学法人評価委員会では、この度、貴法人の令和2年度に係る業務の実績に関する評価を行いましたので、国立大学法人法第31条の3第3項の規定に基づき、その結果を通知します。

<担当>

（国立大学法人に関しては）

文部科学省高等教育局国立大学法人支援課  
国立大学戦略室

TEL:03-5253-4111（代表）（内線 2002）

（大学共同利用機関法人に関しては）

文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課  
評価・調査分析係

TEL:03-5253-4111（代表）（内線 4301）

## 令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人埼玉大学

### 1 全体評価

埼玉大学は、時代を超えた大学の機能である知を継承・発展させ、新しい価値を創造することを基本的な使命としている。第3期中期目標期間においては、第1に次代を担う人材を育成する高度な教育を実施するとともに多様な学術研究を行って新たな知を創造し、その成果を積極的に社会に発信すること、第2に産学官の連携によって、知の具体的活用で現代の諸課題の解決を図り、また地域社会のニーズに応じた人材を育成して、広域地域の活性化中核拠点としての役割を積極的に担うこと、第3に多様なグローバル人材を育成するとともに世界的諸課題に学術成果を還元し、国際社会に貢献することを目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、文理融合など学際領域研究を促進するため、人文社会科学研究科及び理工学研究科等の連携による融合研究プロジェクト等を推進するとともに、コロナ禍におけるきめ細かな学生支援を行うなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

#### （「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 東アジア地域の持続的発展に向けた研究を推進し、その成果を社会に還元することを目指して、人文社会科学研究科と理工学研究科の連携により令和元年度に設置した「東アジアSD研究領域」において、現地とオンラインによる「カンボジア王国・プレアビヒア州エコビレッジ地区乾季農業生産技術の基礎」研修会を実施したほか、ミャンマー・シャン州のインレー湖周辺の地下水と表水を調査した技術テキストについて、英語版に加えミャンマー語版を作成、公表している。（ユニット「イノベーション創出と地域活性を目指した融合科学研究・開発の推進と人材育成」に関する取組）

## 2 項目別評価

## &lt;評価結果の概況&gt;

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載19事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

---

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

### ○ コロナ禍におけるきめ細かな学生支援

コロナ禍における新入生の孤立を防ぐため、専用電話回線を設置し、専任教員が全ての新入生に電話連絡等を行うとともに、上級生が新入生の悩みを聞いてアドバイスをを行う「新入生ピアサポートアワーZoom」を開催している。また、学生総合相談窓口「なんでも相談室」を設置し、臨床心理士による対面や電話での相談対応を実施するとともに、ウェブサイト「なんでも相談室」においてコロナ禍における新しい生活様式を踏まえた心理的に役立つ情報を定期的に掲載するなど、学生ニーズにきめ細かく対応する取組を進めている。